



ルワンダの子どもたちの様子を紹介します。国全体としては学校数はまだまだ不足しているといいますが、今回は、私たちが訪れたルイスさんの私設校ウムチョ・ムウイーザ学園の幼児部についてです。

幼児部は月曜日から金曜日まで朝7時45分〜午後0時半、朝会15分、中間休憩30分、昼食60分を除き、30分間授業を6コマ、学級担任制で学びます。現地の公立学校と異なり、リズム運動や折り紙など、日本の教材や指導法、特別活動を取り入れています。例えば、

（ア）机の位置を

コの字形、対面形、前向き形など、担任が人数に応じて工夫している。

（イ）机面が大きくて作業しやすい。また色鮮やかで、掲示物がきれいに整い、教室環境が明るい。

（ウ）子どもたちは、しっかりと座りができ、ハイタッチをしたり手を握るなど、実に人なつこい。

これは、昨年まで在籍した日本人教師・斎藤照子先生（79）の指導、またプロッシー先生（30）の日本滞在研修の成果であると感じました。

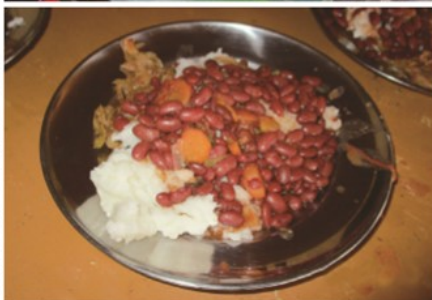
なお、授業間のチャイムはなく、各自が先生に申し出れば、授業中でもトイレ使用のために退室できます。しかしトイレの場所が遠いからでしょうか、花壇で済ませた子を見掛けました。こちらが声をかけると、じっと固まっていました。

アルファベットの文字、単語を復唱する年長組で

一緒に授業をさせてもらいました。どの子どもも単語の意味を理解し、身体表現を



机を「コの字型」にしてアルファベットの勉強をする幼児部の教室



貧しい子どもたちに無償提供する給食

貧困救済が学園経営を圧迫 支援に頼らざるを得ず

楽しんでいました。

また、幼児部全員で「手つなぎ鬼」と「人数集め」をしました。そして、群がる子どもらを「ガオー」と腕を広げて追いかけると、全員が「キヤー」と目を丸くして逃げ回り、子どもらしい姿を見せてくれました。3人の先生たちも一緒に駆け回り、「私たちも久しぶりに聞く大声に驚いたけど、楽しかったわ!」と笑い合いました。先生方の連携や協力は見事で、たいへん感心しました。

ウムチョ・ムウイーザ学園には240名の児童が在籍していますが、その中で、貧しさゆえに授業料（ノート等の教材費も含む）や給食費を納められない家庭もあり、約80名分を学園側が負担しています。

また、調理室と食堂を建設し、昼食を用意できない子どもたちに給食を無償で支援しています。実はこれらが学園の運営上、大きな財政困難を招き、常に支援に頼らなければならぬ要因となっています。

「この困難をどのように解決したら良いのか、私たちはとても悩みます。どう進むべきなのか。ご意見をください」とルイスさんは切実な現状を語り、私たちに問いかけました。

教育現場の指導のみならず、ベトナム・カンボジア・タンザニア等の海外支援を続けてきた私たちに對する期待の大きさを、再認識した瞬間でした。

（次回につづく）

（嶋田秀樹＝須坂市田の神町在住、元教員）